

2022年12月15日 町田市医療と介護の連携支援センター

学んでみよう！！「高齢視覚障害者のリハビリの可能性と視覚リハ専門家（歩行訓練士）の出来ること」

講義内容の概要

視覚障害リハビリテーション協会

吉野由美子

見えにくくて肢体障害がある当事者の私と 視覚リハの専門知識を持つ私と

- 自己紹介
- 介護認定 要支援2
- 68歳の時第5腰椎の圧迫骨折
- 長い距離の移動には電動車椅子
- 2017年7月15日より身体のリハビリのため介護保険で運用されているデイサービス施設に通所開始(週2回)
- デイサービス施設を利用する中で、介護保険サービスでは視覚障害者に対するケアが正しくおこなわれていないことを痛感した。



今日のお話の狙い

- 視覚障害者についての間違った固定観念の払拭
- 視覚リハビリテーション(ロービジョンケア)とはなにか
- 視覚リハ専門家(歩行訓練士)とはどんな専門家なのか
理解を深める

視覚リハサービスと障害者福祉サービスとの併給について

- 視覚リハ専門家との連携の重要性とその作り方

誤ったイメージの払拭

視覚障害者は数が少ないは間違い

- 我が国では、5年に1度国勢調査に合わせて身体障害者の実態調査を行っている。
- 2016年度の国の調査によると
視覚障害の身体障害者手帳取得者
31万2000人と推計(障害者全体の約7%)
- 内65歳以上の高齢視覚障害者が約69%
- 18歳未満5,000人
- 超少子化超高齢化

2009年に日本眼科医会の 研究班が行った調査による推計

アメリカの視覚障害の定義を使って分析

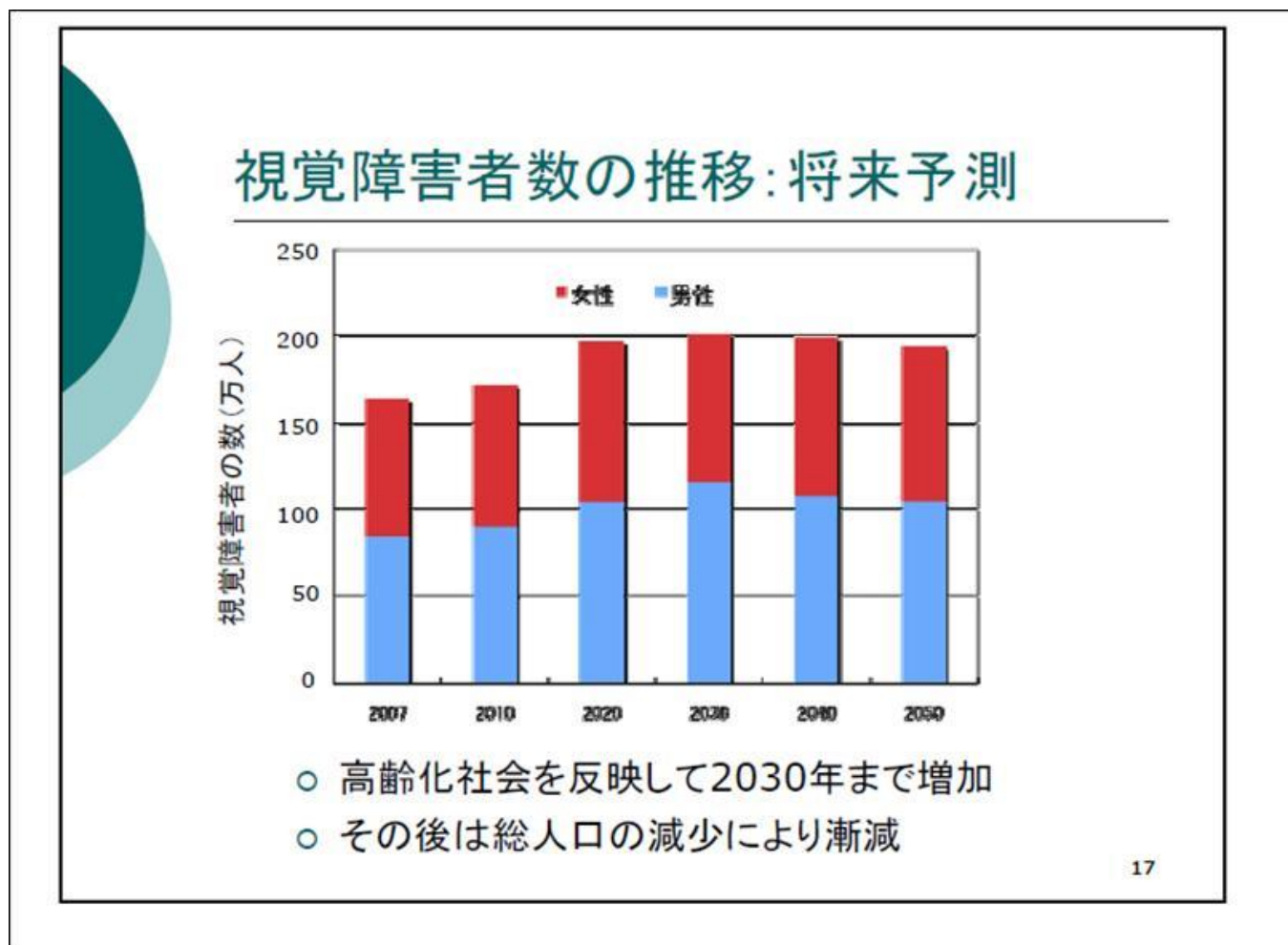
- ロービジョンとは、良い方の眼の視力が0.5以下 0.1以上
- 失明(社会的失明) 良い方の眼の視力が0.1以下
- 視覚障害 ロービジョン+失明
- 失明(社会的) 188,000人
- ロービジョン(弱視) 1,449,000人
- 合計 1,637,000人
- 年齢別に見ると70歳以上半数、60歳以上が72%

身障手帳所持が障害者数を反映しない

- 視覚障害者とは、見えない・見えにくいために日常生活に困っている者をいう
- 身障手帳取得の目的は、福祉サービスをうけるため
→他のシステム（例えば介護保険）でサービスをうけている人は「視覚」での手帳を取得しないことが多い
- 手帳取得基準が厳しいと困っていても手帳取得できない
 - 支援者の考える視覚障害者とは、見えない・見えにくいことで日常生活に支障を来している人のこと

視覚障害者の推移・将来予想

(上記研究からの引用)



2030年には視覚障害者数は200万に達すると推計

視覚障害の原因

1960年代ぐらいまで

- 栄養失調
- トラホーム
- 細菌性の感染症によるもの
(はしかや先天梅毒など)



- 幼い頃からの障害

最近ワースト5と見なされている原因

- 緑内障
- 糖尿病網膜症
- 網膜色素変性症
- 加齢性黄斑変性症
- 脳血管障害によるもの



- 人生の半ばでの障害
- 全体の8割以上が中途
視覚障害者

幼いころ(先天も含む)からの 視覚障害者

- 幼い頃からの人は、眼以外の感覚器を使用することを学びながら発達する。
- 視覚障害者として生きていくための様々な方法を盲学校などでの教員・先輩や仲間の視覚障害者から学ぶことができる。



- 見えない・見えにくいことは沢山の困難があるがそれ乗り越えるための力を身につけている。

中途視覚障害になると

- 視覚はあまりにも便利すぎる情報入手器官
- 外界の情報の8割から9割は視覚から入手
- 人間は、視覚的動物であると言われている。
- そこで、人生の半ばで失明したりロービジョンの状態になったら、とにかく絶望的なショック状態となる。



- 8割以上の中途視覚障害者は自殺を考えると
言われている。

小括(視覚障害者の誤ったイメージ)とは

- 視覚障害者は数が少ない
- 見えない・見えにくいことで困っている人は150万人を超える
- 幼い頃からの視覚障害者→教育などの発達支援
中途視覚障害者→視覚リハビリテーション
- 視覚障害者と言っても大変多様で一人一人違う
皆さんがたまたま出会った方は、多様な視覚障害者の一人に過ぎない

視覚（障害） リハビリテーションとは

「基本的には障害を受ける以前、すなわち晴眼時（正常に見えていた時）に獲得した多くの知識等を含む能力をベースにし、そこに若干の新たな能力を付加して、新しい行動様式を再構成していくこと」

芝田裕一編著「視覚障害者の社会適応訓練」から引用

視覚以外の他の感覚を使って生きられることに 気づいてもらうことが第一歩

失明して退院する方が車に乗って帰宅する時に、看護師さんが、下記の図のように、車のドアと屋根に触らせてくれて、乗り込めるように指導してくれた時、「あ！見えなくてもこうやって工夫すれば生きていける」と気がついた。それで生きる気力がわいてきた。
(自殺まで考えていた中途失明者からの話)

椅子に座るとき
片手を背もたれに
触れてもらいます。
テーブルがある場
合はもう片方の手
でテーブルに触れ
てもらいます。



車の乗り降り

- ・車に乗る時は、ドアや屋根、座席に触れてもらい、車高や座席の位置を確認してもらってから乗車してもらうとよいでしょう。降りる時は介助者が先に降り、下車する場所の足元の安全を確認してください。(図④)



視覚リハビリテーションの目的(年齢別)

(吉野の考え方)

- 視覚を使わなくとも、あるいは見えにくくなっているとしても、生きていけると言う事を、簡単な事で、本人に自覚を持ってもらって、失った自信を取り戻してもらう事
- 若年層では、学校への復学・復帰
- 中高年では、職業復帰・社会的な役割を果たせるようになること
- 高齢視覚障害者では、今まで生きて来た生き方を継続して、生きがいのある人生を全うする

なぜ視覚リハとその専門家は
一般に知られていないのか
我が国における視覚リハ導入の特殊性
(眼科医が視覚リハを知らない、
医学的リハビリテーションが抜けている)

視覚リハの成立過程

- 欧米で失明軍人のリハビリテーションのために体系化
- 我が国には1960年代後半に考え方が輸入された
- 1970年初めに「日本ライトハウス」が海外から講師を呼び歩行訓練士の養成をはじめたが、養成の対象者は、既に視覚障害関連福祉施設・盲学校に勤務している方に限られた。その現任研修的な考え方は、今でも根強く続いている
- 既に失明し、眼科医療の手を離れた方を対象にしていたこと、視覚リハの方法論は、全盲で単独の視覚障害者を対象として発展したこと等により、眼科医も歩行訓練士を知らないケースが現在でも多い。

1.歩行訓練士が出来ること

2.環境改善へのアドバイス例

視覚(障害)リハビリテーション専門職

ここでは歩行訓練士を中心に話す

- 名称 視覚障害者生活訓練等指導員(歩行訓練士)
現在全国で約500人程度実働
- 資格 認定資格
2カ所の養成施設で大学卒業後2年間の教育を受ける
- 名称 視能訓練士
- 資格 国家資格
通常は眼科で視力や視野検査などを担当 ロービジョン
ケアについては、それを専門としている人はまだごく少数

視覚リハ専門家としての歩行訓練士

歩行訓練士は、

- ①移動（外出時や室内での移動）
- ②文字の読み書き（コミュニケーション）
- ③その他日常生活に関すること（食事、家事など）

これらの困りごとの原因と解決法の知識を持つプロ



触って、聞いて物事を理解してもらうプロ

環境改善と工夫の事例
高齢視覚障害者の
日常生活が豊かになる

事例1:階段の工夫(歩行)

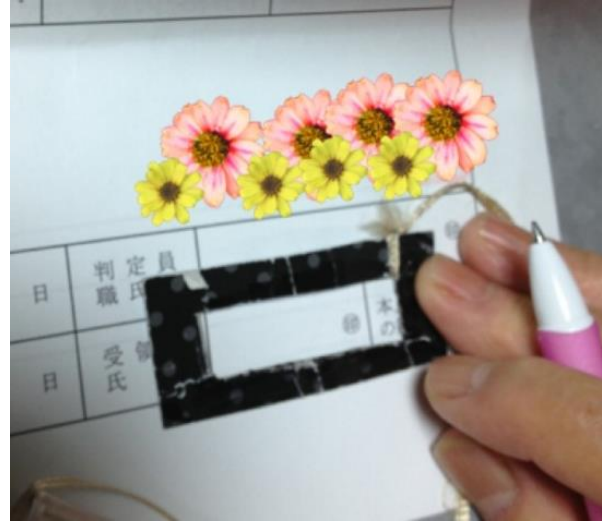
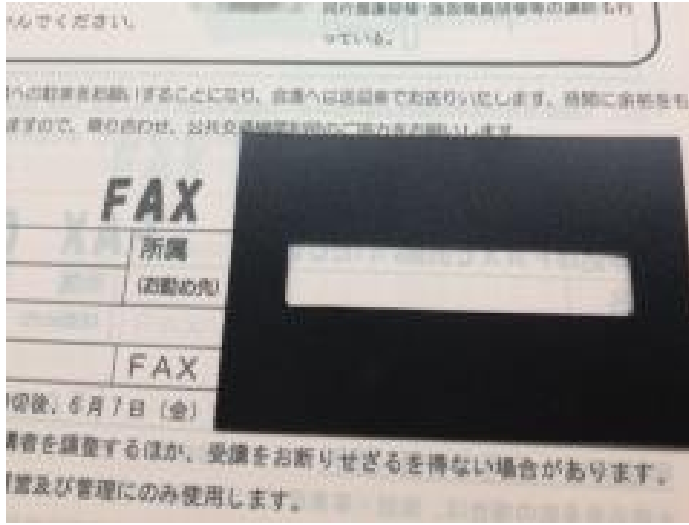


ご自身でされていた工夫
(ペンキで塗る)



ご自身でされていた工夫
(テープを貼る)

事例3:文字を書く(コミュニケーション)



「これがあれば年賀状が書ける!!」
何年も行けなかった選挙に行きたい!!」

視覚リハビリテーションとは

- 視覚リハビリテーションとは、視覚以外の他の感覚からの情報をフルに使って、生きて行けることを当事者に体得してもらうこと。（見えないから出来ない→見えなくても出来るに置き換える技）
- 視覚リハ専門家は、視覚以外の様々な手がかりを駆使して、また、残った視機能と視覚以外の手がかりを活用して生きて行くことを教える専門家

私のブログ

「吉野由美子の考えていることしていること」に
今日のプレゼンをPDFで残します
後からゆっくり見てください。



URL <https://yoshino-yumiko.net/>